

# スコア映画サロンのお知らせ vol.309



◆日時：2026年5月24日(日) 14:00~18:00

◆会場：名古屋国鉄会館  
 (わからない方は10分前にスコアレに集合またはお問い合わせください)  
 ※映画サロンは禁酒禁煙です。

◆参加費：1000円(初参加の方は無料です)

## 課題映画

▷ **オールド・オーク**  
 (4/24より伏見ミリオン座にて公開)

▷ **未来**  
 (5/8よりミッドランドスクエアシネマほかにて公開)

## サロンメモ

今回は私の外国映画監督トップ3の一人ダルデンヌ兄弟と、日本のトップ3の一人石井裕也監督の競演となった。まずはベルギーの誇るダルデンヌ兄弟の「そして彼女たちは」。サロンでもずっと取り上げてきた映画作家だが、今作の皆さんの評価も相当高いものとなった。少女たちのリアルな描写とそれぞれに希望を感じさせるほのかな光。その描写のさりげなさがいいという意見、日本の現実はどうかという疑問、日本タイトル的確さとその後に続く言葉は何だろうという問いかけ等々。中にはラストのパートに違和感があるとの意見もあった。豊かな映画には豊かな感想がいっぱい出る。この監督の名前は知らなかったけど知る事ができてよかったという言葉は嬉しい。徹底的に女性たちを主人公として見つけたこの映画を作ったのは男性の兄弟監督という事は特筆したい。

そして石井裕也監督の「人はなぜラブレターを書くのか」。この映画の評価は賛否拮抗していたが、終盤になって次々と否定的な意見が出て大勢はそっちに。わざとらしい、綺麗な、泣かせる演出が過剰などなど。もちろん肯定として家族愛が表現されている、高校生の娘に希望を見出すといった意見もあった。さっき競演という漢字を使ったが、今回の2本はさりげなさやわざとらしさという差異に尽きるか。石井監督は大好きな監督だが、もうトップ3ではない。登場人物の一人が実在だったとサロンの場で知って益々嫌悪感を覚えた。オリジナル脚本でメジャーで勝負、は讀みたいが、「月」や「本心」で見せたその鋭い力を泣かせに使っちゃあ。

次回もトップ3の一人ケン・ローチ監督が登場。もう一人の作ってみたいとわからない瀬々敬久監督作には不安があるが。

(小西)



4/26(日)	そして彼女たちは	人はなぜラブレターを書くのか	ナースコール	ストリート・キングダム 自分の音を鳴らせ。	マーティ・シュプリーム 世界をつかめ	プロジェクト・ヘイル・メアリー	四・三事件 ハラン 済州島	お別れです ほどなく、
サロン参加者								
岡村 昌俊	4	2						
高橋 広河	4	4		4	3	4		4
加藤 賢二	5	3						
山本正明	5	5	4	3	3	5	4	4
横井 清	5	3	5	4	4	3	3	4
斎藤 文彦	3	5					5	5
白石 麻由子	5	2					5	
近藤 生久子	5	2						
林 美夕紀	5	4	5	4	5	4		4
井上 章		4	5	4	4	4		4
三田 正継	4	3	5	5	4	4	4	5
小西 孝直 (スコアレサロン代表)	5	1	4				3	
坪井 篤史 (スコアレ支配人)	5			4	4	4	4	
木全 純治 (スコアレ代表)						4	5	

初めて参加される方は参加費無料！10分前にシネマスコアレまでお越しください。